

大崎地域を世界農業遺産へ vol.13

里地・里山の保全と大崎耕土の恵み⑨「生物多様性と農業の共生」

大崎耕土の水田農業は、湿地などの未利用地を水田利用することで発展してきました。そして、水田や水田地帯に張り巡らされた水路、ため池、屋敷林・居久根といった、水田を核とする湿地性の生態系が残され、生きものと農業の共生の姿も残されてきました。

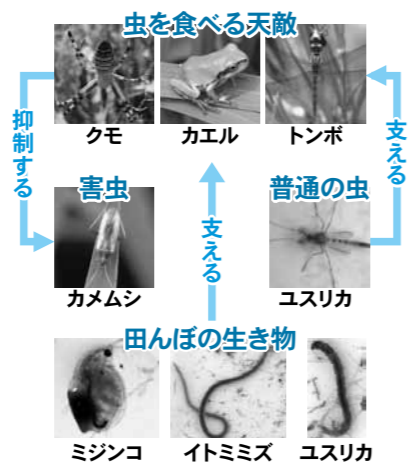


▲ 豊かな水田の生態系

水田の周りにはカメムシなど、稲の害虫も生息していますが、カエルやクモ、トンボなど、害虫を食べてくれる生きものも多数生息しています。このように害虫の天敵となる生きものがすみやすい環境を維持することが、農業生産に対しても恩恵を与えているのです。

全国的に農薬などによる害虫防除が主流となっている中、大崎地域では環境保全米や有機栽培に取り組む農家を中心に、天敵となる生きものによって害虫被害を軽減して農薬の使用を抑え、人と生きものが互いに支え合う共生の取り組みが行われています。次世代につなげていきたい大崎地域の大切な宝です。

生きものつながりを利用した害虫管理の考え方



世界農業遺産勉強会(第7回)

【問い合わせ先】産業政策課
世界農業遺産推進室
☎ 23-2281
sangyo@city.osakimiyagi.jp

日時：7月24日(日)
10時～12時
場所：涌谷公民館(涌谷町)
内容：麓岳と農民の信仰白山祭と種籾交換 - ほか
講師：佐々木茂樹氏(前涌谷町文化財保護委員長)ほか
定員：50人
申込：7月22日(金)まで、産業政策課世界農業遺産推進室へ、電話かメールで申し込み

6月1日現在の大崎市の人口(単位:人・世帯)

地域	男	前月比	女	前月比	計	前月比	世帯数
古川	37,941	9	39,609	-17	77,550	-8	30,433
松山	3,068	-13	3,228	-8	6,296	-21	2,193
三本木	4,023	-1	4,072	-7	8,095	-8	2,682
鹿島台	5,882	-6	6,276	-3	12,158	-9	4,503
岩出山	5,552	-3	5,853	-5	11,405	-8	4,249
鳴子温泉	3,080	-1	3,442	-1	6,522	-2	2,825
田尻	5,614	-13	5,779	-12	11,393	-25	3,590
市全体	65,160	-28	68,259	-53	133,419	-81	50,475

☎ 市政情報課統計担当 ☎ 23-5091

今月の納税

納期限：8月1日(月)

□ 軽自動車税	—
☑ 固定資産税・都市計画税	第2期
□ 市県民税	—
☑ 国民健康保険税	第3期
☑ 介護保険料	第3期
☑ 後期高齢者医療保険料	第1期
□ 個人事業税	—

☎ 納税課収納担当 ☎ 23-5148

空間放射線量の測定結果

(単位:マイクロシーベルト/h)

6月20日測定	地表面から1m	地表面から0.5m
市役所第2駐車場	0.04	0.04
松山総合支所	0.05	0.04
三本木総合支所	0.05	0.06
鹿島台総合支所	0.05	0.05
岩出山総合支所	0.06	0.05
鳴子総合支所	0.06	0.05
田尻総合支所	0.06	0.05

火災発生件数

(5月末日現在・右欄は前年比)

建物火災	19件	+5
林野火災	1件	+1
車両火災	3件	0
その他火災	12件	+6
合計	26件	+11

交通死亡事故件数

(6月15日現在・右欄は前年比)

発生件数	1件	-1
死亡者数	1人	-1

☎ 防災安全課 消防担当・交通安全担当・放射能対策室 ☎ 23-5144

7月号の主な内容

- ③ 大崎地域を世界農業遺産へ Vol.13 市長コラム 天地人
- ④ 10月1日から介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)を始めます
- ⑥ 選びとれ 明るい未来を 君の手で 第24回参議院議員通常選挙
- ⑧ 十年物語 ～おおさき人の軌跡～ 鳴子温泉観光ボランティアの会会長 馬場祥悦 さん おおさき青年会議所理事長 安部文秋 さん
- ⑨ 地域づくりファイル ② 岩出山地域づくり委員会
- ⑩ 市政トピックス 6月の主な出来事
- ⑪ 地域発!お・ら・ほ・の・ま・ち
- ⑫ オオサキプレイガイド
- ⑭ 市職員を募集します ほか
- ⑳ 今月のお知らせ
- ㉑ 子育て支援情報
- ㉒ 育児相談・乳幼児健診
- ㉓ 休日当番医 ほか

ピタ崎さんの観光ひとくちメモ

その1
ぼくと一緒に観光について考えていきましょう!

☎ 観光交流課 ☎ 23-7097

全国の多くの地方で人口が減り、消費の低迷が続いています。大崎市も決して他人事ではありません。このような状況を少しでも改善するためには、大崎市の観光のあり方を見直し、より多くの観光客の皆さん(交流人口)に、大崎市で消費してもらうことが地域の活性化へとつながっていきます。

いま、観光に求められているのは、景観や施設を「見る観光」から、その土地の暮らしや食・文化を「体験する観光」へと移りつつあります。

地域の生活や文化を観光に取り入れることで、より幅広い観光産業が展開できるようになり、その実現には、地域をよく知る皆さんのご協力と、おもてなしの心が必要不可欠です。

このコーナーでは、観光に関する課題や取り組むべき事などを紹介しながら、皆さんと一緒に魅力ある大崎市を目指してまいります。

6月5日、今年3月に閉校した鹿島台第二小学校の校舎と体育館を会場に、デリシャストマトまつりが開催され、約3,000人が買い物やトマトの早食い競争などを楽しみました。

直売コーナーには3トン分のトマトが用意されました。まつりが始まると同時に会場を埋め尽くす長蛇の列ができ、みずみずしく真っ赤に染まったデリシャストマトを買い求めていました。

もぎ取り体験に参加した子どもたちは、熟したトマトを探して葉の間を覗き込んだり、頭の上にあるトマトに



思いきり手を伸ばし、採ったトマトを見てにっこり。農園を出るころには、袋いっぱいトマトを大事そうに抱えていました。

市長コラム

天地人

NHKのご自慢開催目前!

毎週日曜日のお昼、「キン・コン・カーン♪」と鐘の音で始まる「NHKのご自慢」は、日本を代表する国民的長寿番組です。

そのご自慢が、7月31日、田尻総合体育館を会場に開催されます。応募者の中から書類選考された250組が予選を行い、勝ち抜いた20組が本戦で熱唱します。

当日のゲストは、演歌歌手の千昌夫さんとシャンソン歌手のクミコさん。東日本大震災で、千さんは、岩手県陸前高田市のご実家が被災し、クミコさんは、ご自身が石巻市のコンサート会場で被災した経験から、チャリティーコンサートなどで復興支援に力を注がれてきました。お二人の歌声が、復興発展期へと歩みを進める本市にとつて、大きなエールになることを期待しております。

のど自慢からは、たくさんきたのドラマや歴史が生まれてきたのも番組の魅力でしょう。宮田輝さんや高橋圭三さん



大崎市長 伊藤 隆志